

2014年9月期第2四半期決算

2014年4月28日

MRI 株式会社三菱総合研究所

1. 2014年9月期第2四半期決算

2. 2014年9月期業績予想

3. 中期成長に向けて

4. 参考資料

2014年9月期 第2四半期のまとめ

売上高：422億円 前同比+43億円(+11.4%)

- 消費税率変更に伴う売上早期化、金融業向け売上増加により増収

営業利益：39億円 前同比+10億円(+37.0%)

- 増収に伴い、販管費増加をカバーし、4割増益
- 高稼働のもと、利益率も改善

純利益：21億円 前同比+5億円(+35.8%)

期初予想比：売上高+40億円、営業利益+14億円

- 計画を上回る進捗も、期ズレが主要因のため、通期業績予想は据え置き
- 受注順調。通期売上予想の94%を既に受注確保済み

第2四半期連結決算 <前年同期比>

(百万円)

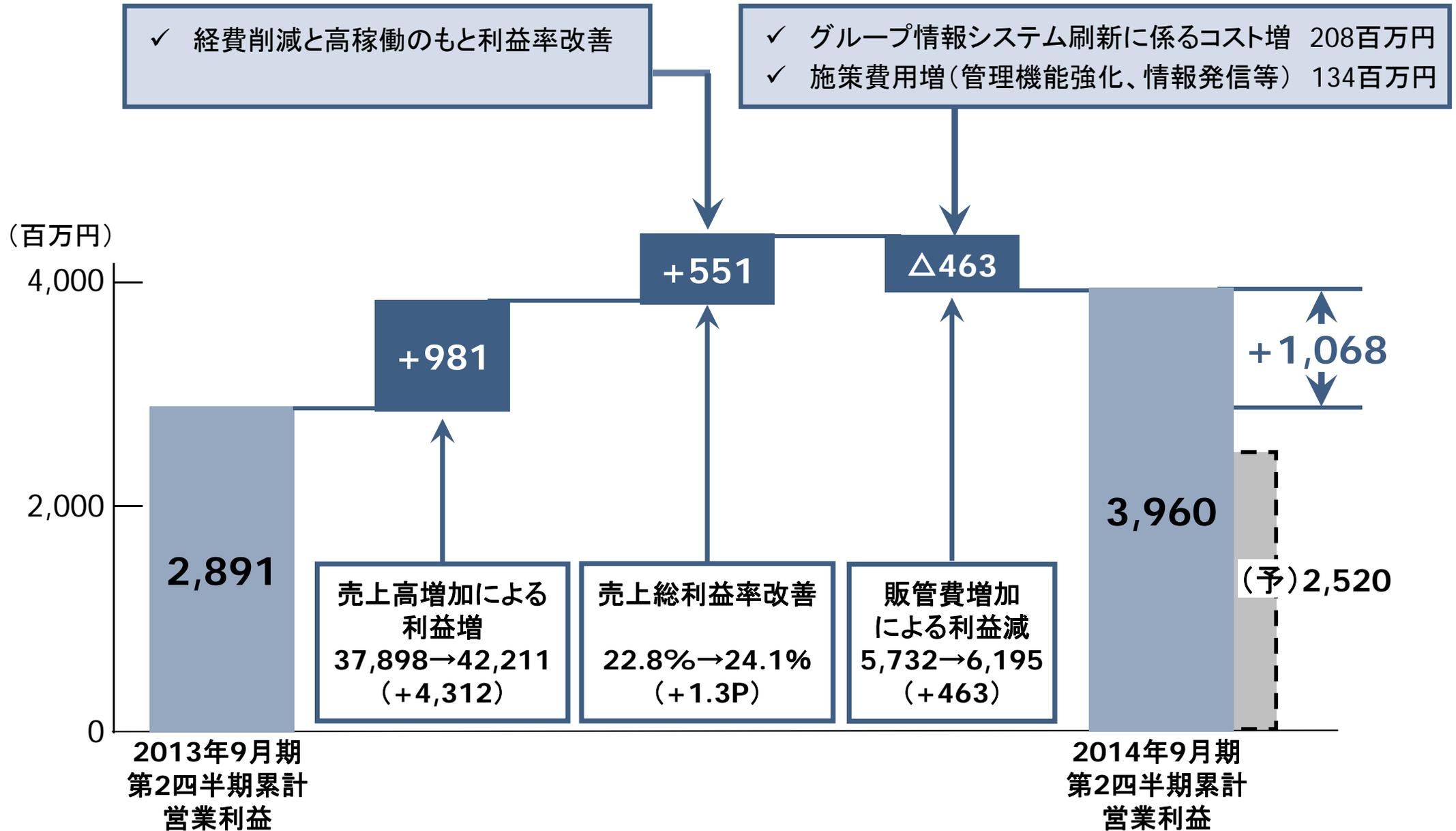
	2013年9月期 2Q累計 (10~3月) ①	2014年9月期 2Q累計 (10~3月) ②	前年同期比		2014年9月期 2Q累計 (2013/10/31予想) ③	公表予想差 ②-③
			増減額 ②-①	増減率		
売上高	37,898	42,211	+4,312	+11.4%	38,200	+4,011
売上原価	29,274	32,054	+2,779	+9.5%	—	—
売上総利益	8,623	10,156	+1,532	+17.8%	—	—
売上総利益率	22.8%	24.1%	+1.3P		—	—
販売費及び一般管理費	5,732	6,195	+463	+8.1%	—	—
営業利益	2,891	3,960	+1,068	+37.0%	2,520	+1,440
営業利益率	7.6%	9.4%	+1.8P		6.6%	+2.8P

●売上高の顧客業種別内訳・対前年同期比増減理由

(百万円)

	前2Q	当2Q	増減額	増減率	増減理由
官公庁	6,057	7,662	+1,604	+26.5%	大型案件増加、消費税率引き上げに伴う売上早期化の影響
金融・カード	17,690	20,645	+2,954	+16.7%	金融機関向けシステム開発、アウトソーシングサービスの売上増加
一般産業	14,150	13,903	△246	△1.7%	

営業利益の変動要因 <前年同期比>



第2四半期連結決算 <前年同期比>

(百万円)

	2013年9月期 2Q累計 (10~3月) ①	2014年9月期 2Q累計 (10~3月) ②	前年同期比		2014年9月期 2Q累計 (2013/10/31予想) ③	公表予想差 ②-③
			増減額 ②-①	増減率		
営業利益	2,891	3,960	+1,068	+37.0%	2,520	+1,440
営業外損益	78	100	+22	+28.3%	—	—
経常利益	2,970	4,061	+1,091	+36.7%	2,570	+1,491
特別損益	19	△18	△37	—	—	—
税金等調整前四半期純利益	2,989	4,043	+1,053	+35.3%	—	—
法人税等	1,193	1,670	+476	+40.0%	—	—
少数株主利益	244	266	+21	+8.8%	—	—
四半期純利益	1,550	2,106	+555	+35.8%	1,170	+936
1株当たり四半期純利益(円)	94.41	128.23	+33.82	+35.8%	71.24	+56.99

シンクタンク・コンサルティング事業

(百万円)

	2013年9月期 2Q累計 (10~3月)	2014年9月期 2Q累計 (10~3月)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	7,212	9,068	+1,856	+25.7%
営業利益	869	1,413	+544	+62.6%
営業利益率	12.1%	15.6%	+3.5P	
受注高	9,416	13,433	+4,017	+42.7%
受注残高	17,486	23,033	+5,546	+31.7%

主なポイント

- 大型案件増加、消費税率引き上げを前に売上計上時期の早期化が進んだことにより、大幅増収
- 増収効果、稼働向上により、販管費増をカバーして増益
- 受注順調。今期売上分はほぼ確保。来期売上予定の案件も官公庁の発注早期化もあり出足良し

ITソリューション事業

(百万円)

	2013年9月期 2Q累計 (10~3月)	2014年9月期 2Q累計 (10~3月)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	30,686	33,142	+2,455	+8.0%
営業利益	2,099	2,593	+493	+23.5%
営業利益率	6.8%	7.8%	+1.0P	
受注高	30,243	33,935	+3,691	+12.2%
受注残高	40,621	42,490	+1,868	+4.6%

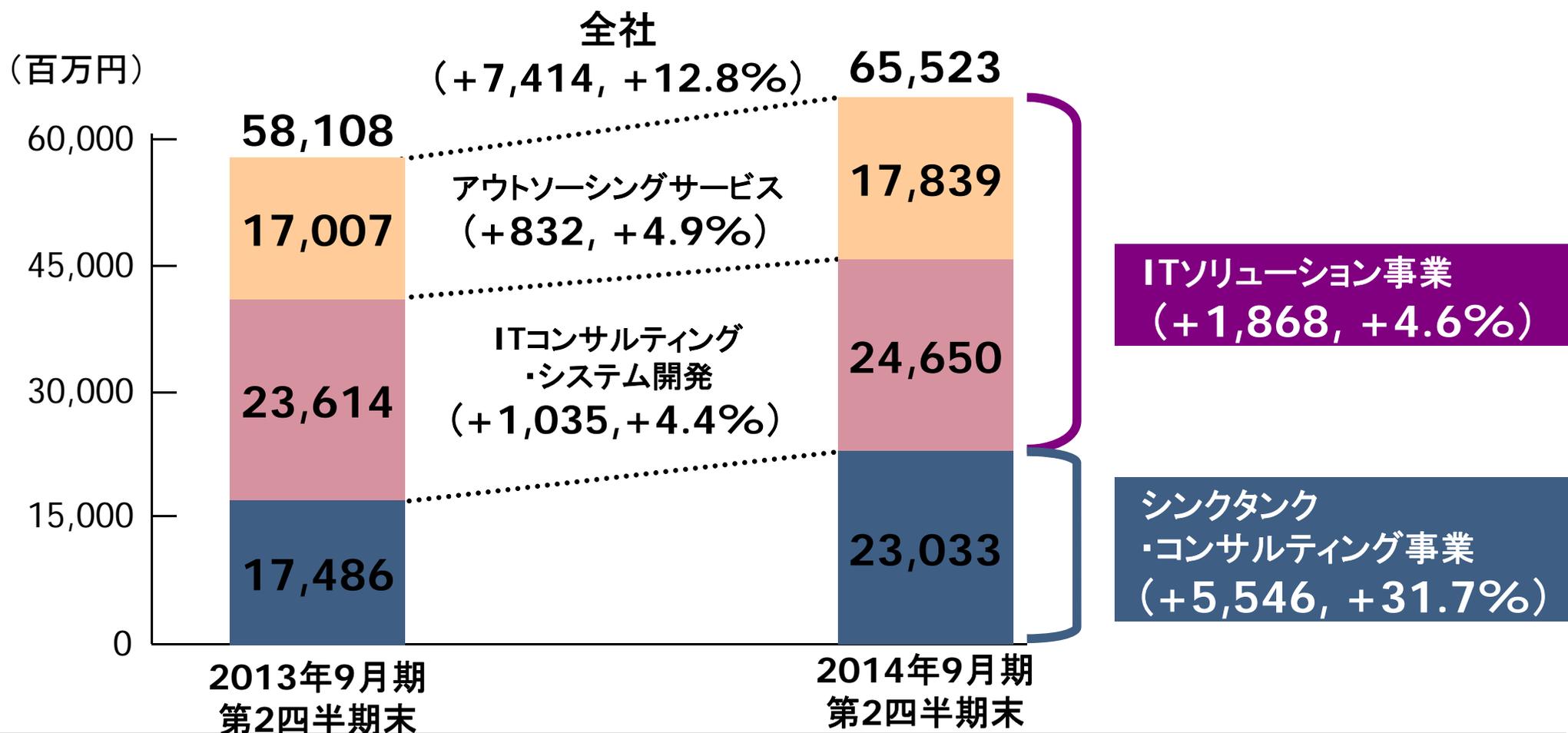
主なポイント

- 金融業向けシステム開発案件、アウトソーシングサービスの増加により、増収
- 増収効果、原価削減により、販管費増加をカバーして増益
- カード、その他金融機関向け案件受注増加により、受注高、受注残高とも前同比增加

セグメント別受注残高 <前年同期末比>

今期売上分、来期繰越分ともに前年同期末を上回る

- 通期売上予想の94%の受注を確保済み
- 震災復興、環境・エネルギー関連、金融・カード向けソリューションが堅調



1. 2014年9月期第2四半期決算

2. 2014年9月期業績予想

3. 中期成長に向けて

4. 参考資料

2014年9月期 連結業績予想

前回(2013/10/31)予想から修正なし

計画を上回る進捗も、期ズレが主要因のため、通期据え置き

売上高予想：868億円 前期比+56億円(+7.0%)

□ シンクタンク・コンサルティング：

大型政策執行支援案件で下期売上増も、外注費も増加し、利益率押し下げ

□ ITソリューション：

金融業向け堅調だが、一部に受注遅れあり

営業利益予想：55億円 前期比+1.2億円(+2.4%)

□ 受注積上げ、売上増による増益

□ 販管費はグループ情報システム刷新、他先行支出により増加見込

当期純利益予想：29億円 前期比+0.5億円(+1.9%)

2014年9月期 連結業績予想

前回(2013/10/31)予想から修正なし

(百万円)

	2013年9月期 実績 ①	2014年9月期 (予想) ②	前期比	
			増減額 ②-①	増減率
売上高	81,127	86,800	+5,672	+7.0%
シンクタンク・コンサルティング事業	21,038	24,700	+3,661	+17.4%
ITソリューション事業	60,088	62,100	+2,011	+3.3%
営業利益	5,370	5,500	+129	+2.4%
営業利益率	6.6%	6.3%	△0.3P	
経常利益	5,566	5,650	+83	+1.5%
当期純利益	2,885	2,940	+54	+1.9%
1株当たり当期純利益(円)	175.67	179.01	+3.34	+1.9%

2014年9月期 配当予想

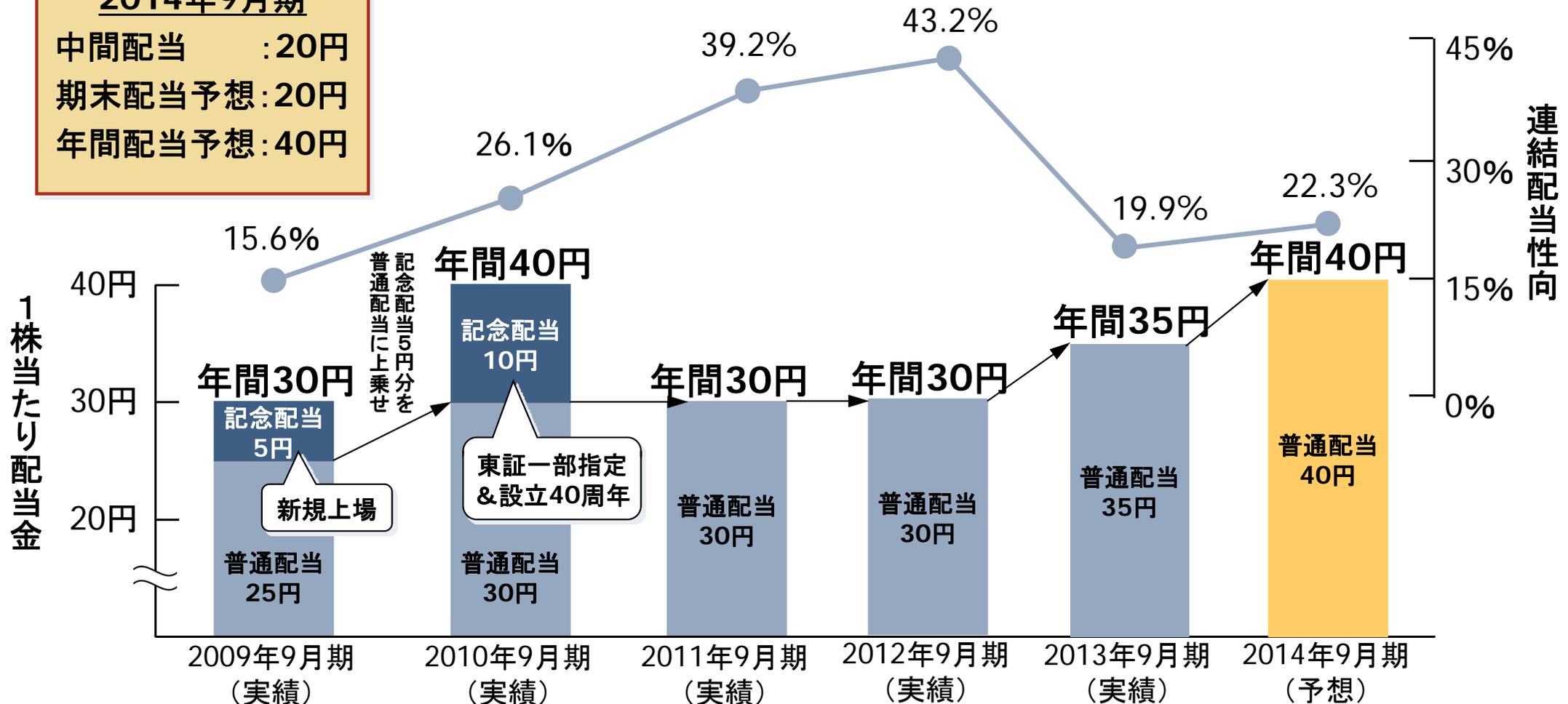
前回(2013/10/31)予想から修正なし

配当方針

安定的な配当を継続的に行いながら、業績や財務健全性のバランス等も総合的に勘案しつつ、配当水準の引き上げを目指す

2014年9月期

中間配当 : 20円
 期末配当予想 : 20円
 年間配当予想 : 40円



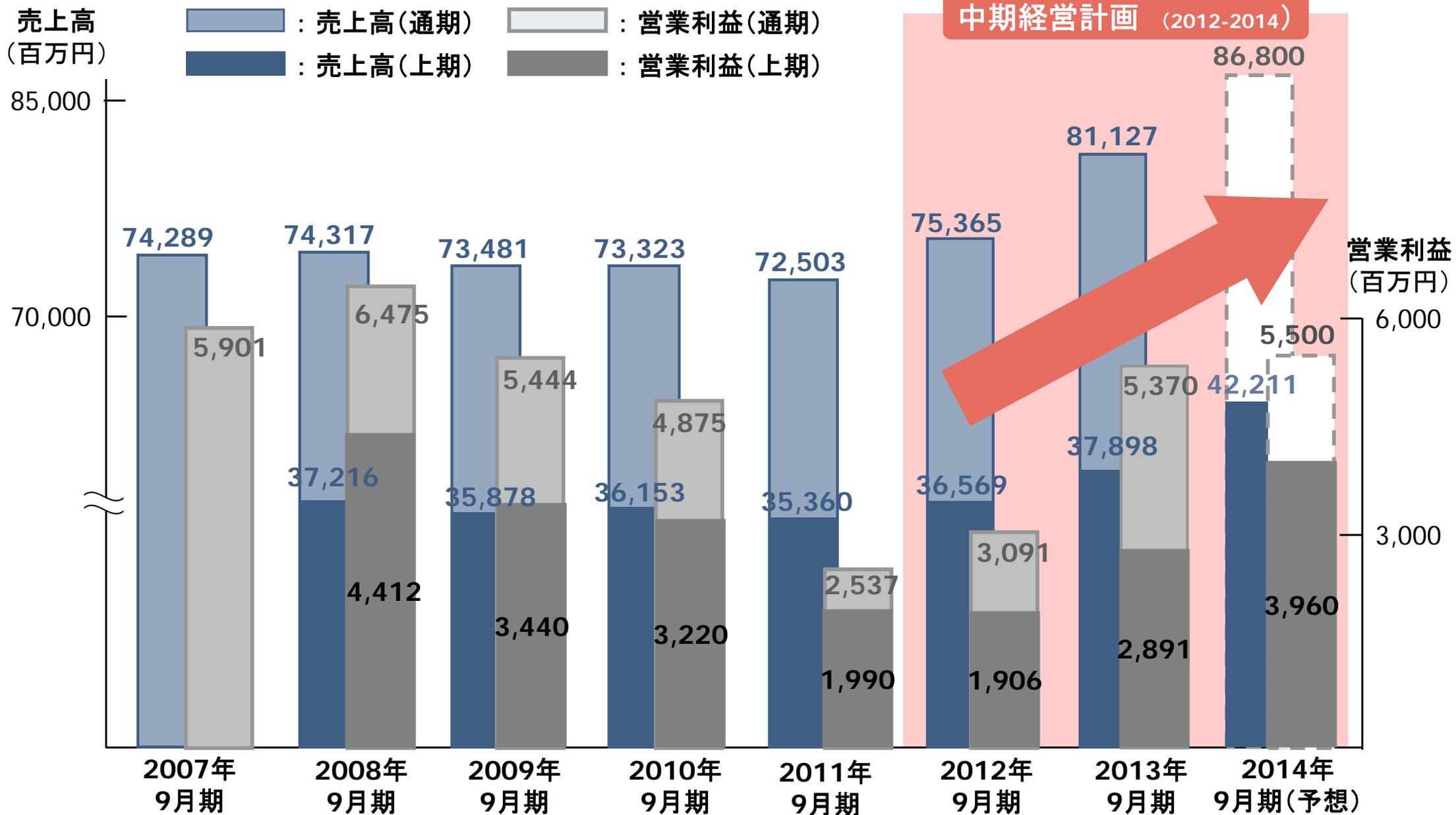
1. 2014年9月期第2四半期決算

2. 2014年9月期業績予想

3. 中期成長に向けて

4. 参考資料

改革効果による事業拡大・収益向上



主な取り組み

シンクタンクから「Think & Act」 tankへ

- 継続して震災復興に貢献。実事業へも参画し、事業領域を拡大
- 2020年を見据えた国の成長戦略を基軸に、その実現を新たな商機に

三菱総研DCSの取り組み

- 金融ソリューションの拡大
- スtockビジネス拡大による安定収益基盤の強化

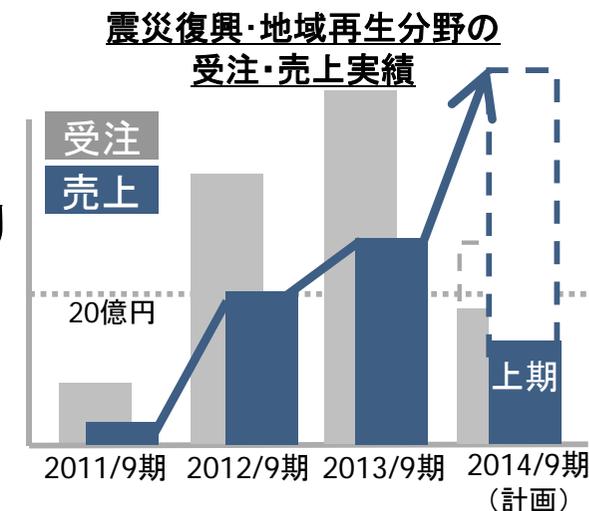
事業展開の多角化

- 先行投資、戦略的・積極的なパートナーシップにより、新事業創出

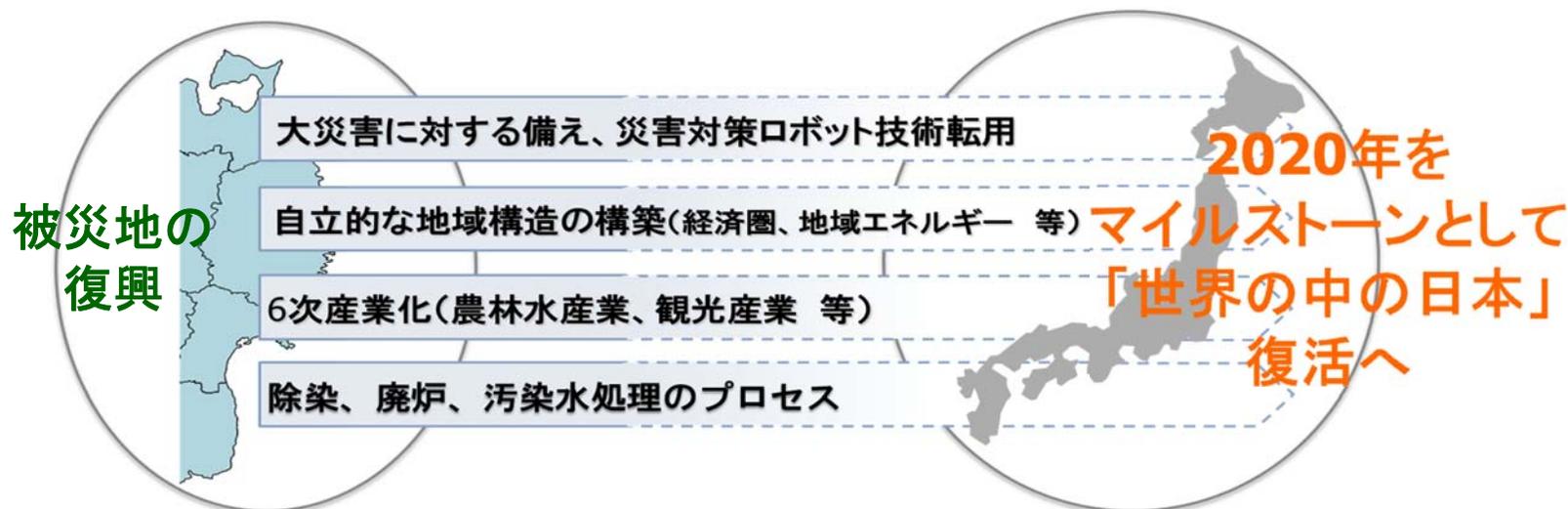
「Think & Act」 tankへ(1) 震災復興・地域再生

震災復興・地域再生に積極的に貢献、事業テーマ・領域拡大

- 実事業への参画
→ 下水汚泥減容化事業、植物工場事業化支援など
- 大規模地震被害想定に基いた安全・強靱な地域づくり
- 廃炉に関する調査・計画検討、PMO業務



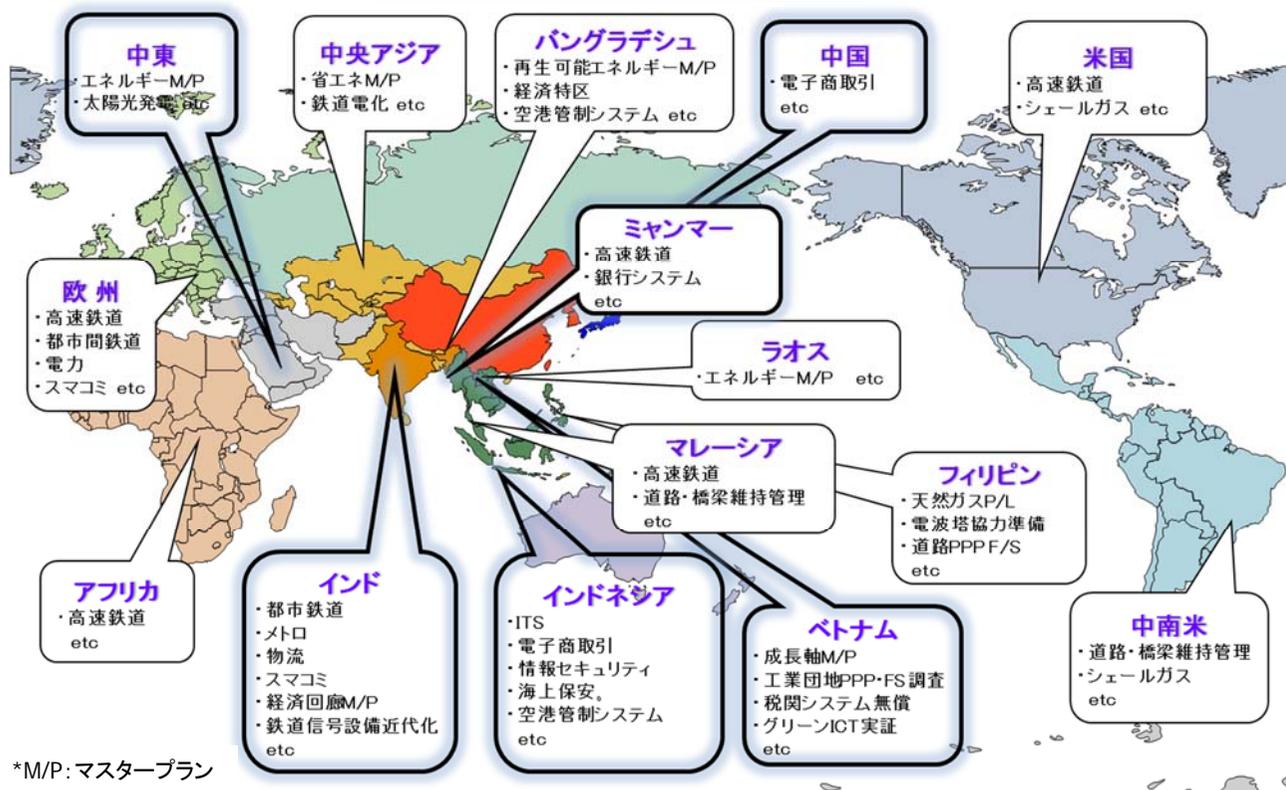
被災・復興から得られた教訓・知恵を日本・世界の課題解決へ



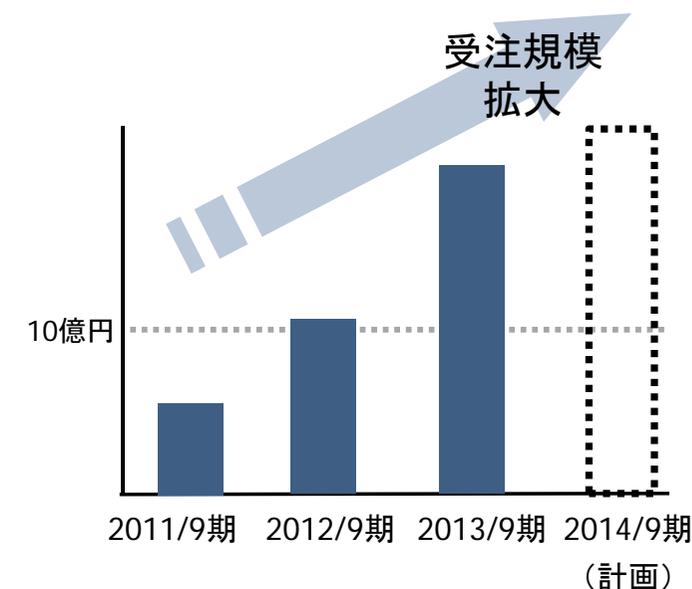
「Think & Act」 tankへ(2) 海外展開支援事業

- 政府・成長戦略「インフラシステム輸出戦略」を基に、全社・成長事業として推進
 - アジアの交通／環境・エネルギー／情報通信分野等で受注拡大
 - 今後は食農、ヘルスケア、防災等領域も開拓
- ODA案件等の具体的プロジェクト、事業形成、実行支援領域でも事業展開
 - 産油国“省エネ”制度設計・施策支援、新興国システム開発PMOなど

海外事業関連の実績



インフラ分野の受注実績



三菱総研DCSの取り組み

金融ソリューションの拡大

■メガバンク

- 海外(アジア・米州)展開戦略支援本格化
- 上海、シンガポール、ロンドンに加え、米国拠点設立へ

■クレジットカード

- 業務システム開発案件獲得・安定稼動維持
- システム企画・設計など上流工程へ積極的に参画

ストックビジネス拡大による安定収益基盤の強化

■PROSRV

- 積極的な拡販営業により、運輸業大手等を受注
- 処理人数 2年連続で上昇トレンドを維持

■千葉情報センター

- 既存先の深堀により、順調に拡大

PROSRV
プロサーブ



事業展開の多角化

(株)アイ・ティー・ワン株式追加取得 (2011年6月51%→2014年2月99.5%)

システム基盤構築力

基盤系開発力向上

- サービス提供範囲拡張、基盤技術者育成

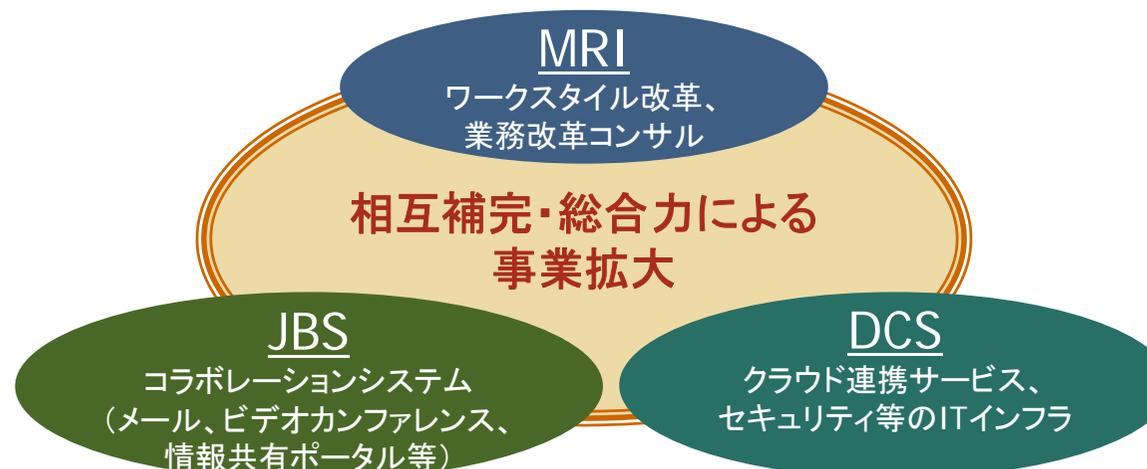
(株)JBSとの資本業務提携 (2014年4月第三者割当増資引受21%)

マイクロソフト製品を活用した
情報系システム環境構築・提供技術

3社の得意分野を組み合わせた協業開始

- コラボレーションプラットフォームサービス提供

コラボレーションプラットフォームサービス



1. 2014年9月期第2四半期決算

2. 2014年9月期業績予想

3. 中期成長に向けて

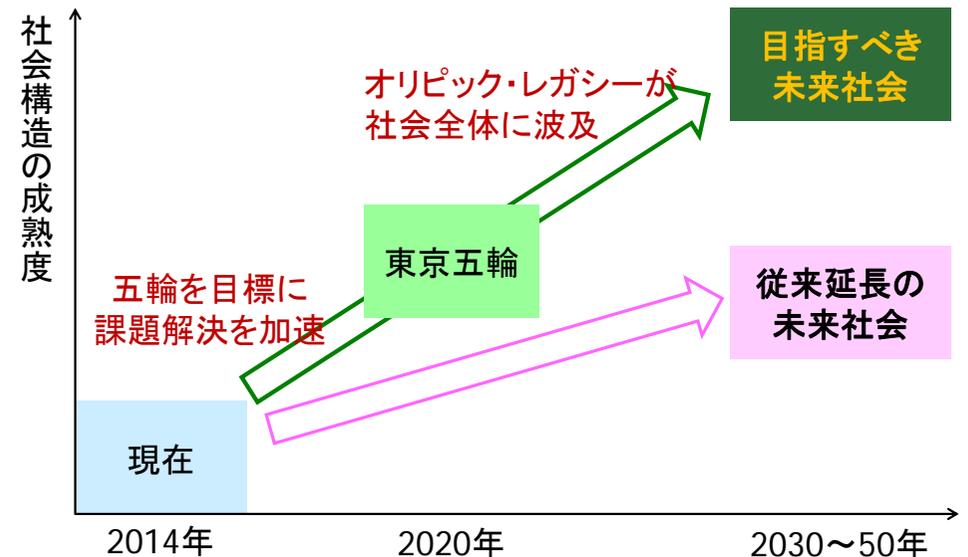
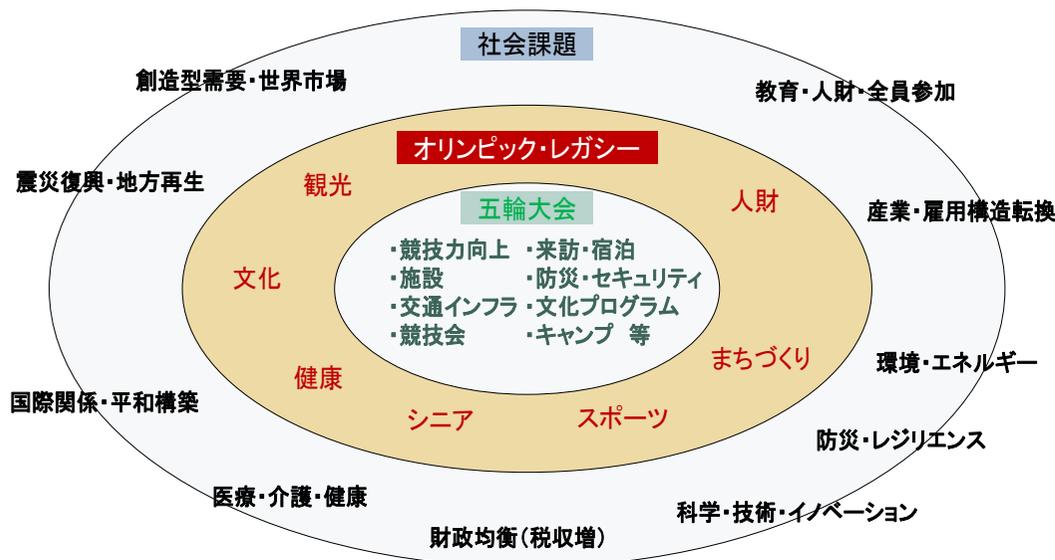
4. 参考資料

未来共創への取り組み

シンクタンク・コンサルティング事業

2014年4月 産官学連携の「レガシー共創協議会」立ち上げ

- 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を契機に、社会課題の解決を加速し、未来にポジティブなレガシー(遺産)を築いていく活動や事業を推進
- 「2020年」「東京」「縦割り・業界」を越えて、オールジャパンで未来社会を創造、日本は世界に先駆けて成熟社会への構造転換を目指す



オープンソース技術への取り組み

ITソリューション事業

2013年11月 Red Hat Forum2013にて、 三菱総研DCS「Best Middleware Implementation」受賞

- 代表的なオープンソースソフトウェアであるJBoss ミドルウェアを戦略的に活用し、導入～運用の低コスト化、短期間での安定したソリューション提供を実現
 - SaaS型人事給与サービス「PROSRV on Cloud」
 - 東京ビジネスセンター（BPO拠点）の業務効率化、ビジネスプロセスの見える化

DCSが提供するJBossソリューション

JBoss インテグレーションサービス

JBoss マイグレーションサービス

ワークフロー導入サービス



Red Hat Forum2013授賞式(2013年11月)

将来の見通しに関する注意事項

この資料は、将来の見通しに関する記述を含んでいます。予想値を含めこれら将来の見通しに関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づいた当社の判断によるものです。

こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、予測困難なリスクや不確実性を内包するものです。したがって、実際の業績等は、これら種々の要因によって見通しと異なる結果となることがあります。

当社は、将来の事象や新たな情報等を反映して、将来の見通しに関する記述を更新したり改訂したりする義務を負いません。



株式会社三菱総合研究所

経理財務部 IR室

TEL : 03-6705-6001
FAX : 03-5157-2171
E-mail : ir-info@mri.co.jp
URL : <http://www.mri.co.jp/>